

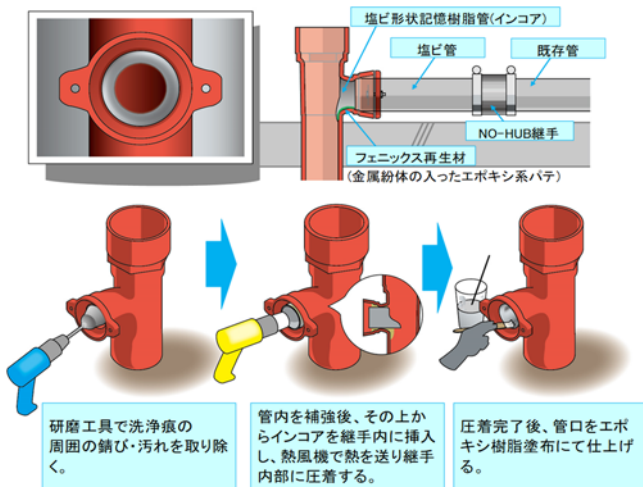
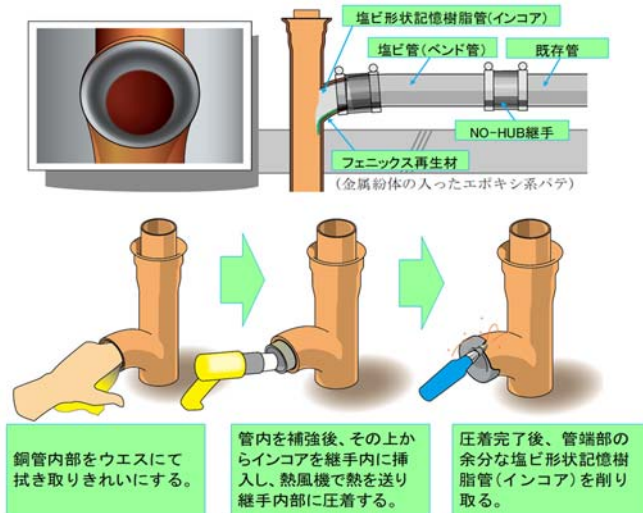


[審査証明番号/有効期限]	BCJ-審査証明-233/2027年1月18日
[技術の名称]	排水管洗浄痕再生技術「HJインコア工法」
[依頼者(審査証明取得者)]	株式会社 長谷エコーポレーション、ジャパン・エンジニアリング株式会社

**[技術概要]**

排水立て管継手は、排水管内を洗浄する際に使用する高圧洗浄ホースによる長年の配管洗浄により、排水立て管継手合流部に高圧洗浄ホースの摩擦による溝状のわだち(以降、「洗浄痕」という)が生じる。高圧洗浄を毎年繰り返すことにより、洗浄痕が深くなり穴があき漏水事故につながる。

本工法は、排水立て管継手内面の洗浄痕に対し補強材にて穴埋めを施したのち、熱を加えることにより膨張する特殊塩化ビニル製形状記憶樹脂管を圧着することで、排水立て管継手部から排水横枝管受口まで一体的にカバーする補強工法である。



**[開発の趣旨]**

(株)長谷エコーポレーションが建設した物件やその他のマンションにおいて、排水立て管の管種として耐久性

のある排水銅管や排水鋳鉄管が使用されているにもかかわらず、長期修繕計画に定めている配管更新時期を迎える前に、長年の配管洗浄により排水立て管継手合流部に穴が開き、下階へ漏水が生じる事例が多く報告されている。管理組合によっては、緊急工事として費用と居住者に負担のかかる排水立て管を一体的にライニングする改修工事を行うケースが増えている。

本工法は、コンクリート床を壊すことなく、住戸ごとに漏水箇所をピンポイントで補強することができるため、居住者への負担が少ない安価な工法であり、穴があいていても施工可能な工法である。なお、補強に際し、熱を加えることにより膨張する特殊塩化ビニル製形状記憶樹脂管(以下、「インコア」という)を用いること、また、排水用横枝管の接続に「NO-HUB継手」を用いることに特徴を有する。

**[開発目標および審査証明結果]**

本技術について、前記の開発の趣旨、開発の目標に照らして審査した結果は、以下のとおりである。

- (1) インコア圧着部位が、ステンレスワイヤーホースを除く樹脂等で被覆された洗浄ホースによる高圧洗浄に耐えうる強度を保持しているものと判断される。
- (2) インコア圧着部位の膜厚が 1.2mm 以上あり、均等に形成されるものと判断される。
- (3) 排水立て管継手合流部に洗浄痕として直径 10mm 以内の穴があいた部分があっても、その内面に実際に耐えうるインコア圧着部位を形成できるものと判断される。
- (4) 排水横枝管を新しい管に交換する際、接続用に使用する「NO-HUB継手」が接続継手としての強度を有するものと判断される。

**[本技術の問い合わせ先]**

・(株)長谷エコーポレーション  
技術研究所 担当:菅原  
TEL:042-311-6030 FAX:042-311-5882

・技術紹介サイト  
<http://www.haseko.co.jp/hc/index.html>

・ジャパン・エンジニアリング(株)  
排水管再生事業部 担当:青木  
TEL:03-5842-1955 FAX:03-5842-1954

・技術紹介サイト  
<http://www.japan-eng.co.jp/index.html>